

京交山岳部報

No 395

'85 9月号

〔第1551回例会〕

金毘羅山

(T)

日 時 9月8日(日) 北大路駅北側(今宮道) 8時集合
コ ー ス 京都-大原-江文神社...金毘羅山
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 788)
備 考 岩のぼり用具一式持参、マイカーで行きます。

〔第1552回例会〕

鳳凰三山

(T)

日 時 9月15日(日)~16日(祭) 早朝出発
コ ー ス 青木鉱泉...ドンドコ沢...鳳凰小屋...地藏岳...観音岳...薬師岳...辻岳...
千頭星山...青木鉱泉
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 788)
備 考 マイカー、テント泊、食糧各自持参で行きます。

〔第1553回例会〕

府県境の山シリーズ(60-5)

鳥帽子512.5と夫婦岩597.7

(R)

日 時 9月29日(日) みぶ 7時集合
コ ー ス 京都-福知山-畑中-榎峠-鳥帽子-遠坂峠-夫婦岩
担 当 者 高速 岡田茂久(TEL 2-3282)
備 考 8月は水浴シーズンの為、国道が混みましたので1回休みましたので、
今回2つガンバッテ登りましょう。

今月の集会

オリエンテーリングについて (近藤担当)

9月10日(火)

下鴨寮

企画運営リーダー会

9月19日(木)

武田宅



ガイドブック

岡田茂久

以前よりぜひ登りたいと思っていた北陸のある山にお誘いを受けた。白山を真近にし広大な展望がほしいままにできるということで、少なからず楽しみにしていた。1/2.5万図によると、町よりはいささか離れた峠越えの国道より、なお校道を入り込んだ処にいかにも北陸の寡村をおもわせる数戸の建物記号が読みとれ、山頂への径と察しられる破線路はその集落より数軒は延びている林道の途中より山腹を登っている。この林道を利用して頂き、その破線路の入口にでても幕営とすれば大分アプローチが稼げるわいとでかけたものである。しかし、その甘い考えは見事に吹き飛んでしまった。折悪しくも思い掛けない集中豪雨に山城が襲われており、おかげで林道は土石流で埋まり通行不能。予定地をはるかにしてまだ降り止まぬ雨の中の幕営となってしまった。

明くればピーカン。長い長い林道を呪いながら数時間、思ったより荒れはてた地図にある破線路にたどりつく。おまけに先を急ぐあまり地図を読み違えブッシュの中を一時間もリングワンデルンをやらしたあげくに、やっとこさ、ぼやきながらも径をみつけコルまで高度差200mと読める地点で立派な林道にとびだした。とまどう我々の前に檜の高一間巾四寸はあろうかの立派な道標。墨黒々と、「峠まで90分、山頂まで130分」とある。正午もだいぶ廻り、折からまた降りだした雨のなか啞然とし、そして思わず「嘘やー!」。どう考えても峠まで30分もあればの高度差と距離である。山頂まで130分を往復すれば帰途は日没。迷った。これだけはっきり書かれれば当然である。しかしこんなことはありえないと我々の判断に従って登りだしたのだが、結果は山頂まで往復90分。好展望等とても望めぬ風雨の山頂を早々に退却、道標まで降りたところで皮肉にも青空がひろがり太陽まで顔をだし残念至極。

ここでも林道の土石流は取り除かれたのか、2台の車で上がってきた数人の若者にであった。道標を建ててきたということである。見るとくたんの道標と同様のものであり、背負子には地元の〇〇町救助隊とあった。「ご苦労さん」とねぎらったついでに糾してみた。以下その問答である。「あの道標の時間はおかしいのではないですか。」「そんなことはない。子供づれだとそのぐらいかかります。」「しかし、30分の行程を90分とはちょっとねー。」「ガイドブックを色々調べたので間違いないです。」「建てる場所が違うのでは。」「いやあ、そんなことはないと思いますがー、我々も道標を建ててから山に登るのは今日が初めてですので、はぎれがわるい。恐れ入った救助隊である。建てる場所を違えたのは明白で、地図で読む登山道は林道より分岐しているが、ガイドブックが書かれた時から林道がずーっと上部まで延長され、登山道一時間行程の地点で再び林道と交わり、そこが新に登山口となった結果である。おそらく何人かの登山者は大いにとまどったであろう。ガイドブックをそのまま信じたためであり、これが逆に時間が少なく書いてあれば遭難ものである。それよりもいちばん様子を知っているはずの地元の町村までもが、ガイドブックにより道標を安易に建てるということに、空恐ろしさを感じるものである。

本屋の棚にはおどろくほどの色々のガイドブックが並んでいる。ガイドブックを見ながらこんな山があるのか、登ってみたいなどと色々想像するのも楽しいものである。また市販のシリーズの地図帳でその山の概要を掴むのもよいだろう。しかし、ガイドブックはあくまで参考であり、すくなくとも実際の登山に際しては国土地理院発行の1/2.5万図を携行したい。携行するだけではだめであり、山行計画の段階からはもとより、常に地図を読む訓練を積んでいかなる場合でも自分の位置が確認できるよう修練したいものである。

先日の山行の折、こんなことなどを伊藤先輩に話したら「ガイドブックなど買うことはないですよ。うちには『京交山岳部報』という立派なガイドブックがありますよんか」。うれしいことである。このだいじな財産を大事に守り育てていきたいとおもっている。

第1544回例会

土砂流を乗り越えて

△1628m 赤兎山 大槻貞従

日時 1960.7.12(土) 14(日) 場所 福井県勝山市

7月13日(土) 曇のち雨。 今年梅雨明けが10日も早いとの便りに、幸先よしと喜んだのも束の間、戻り梅雨とかで、大雨、雷雨注意報さなかを、午後3時九条車庫を出発した。九頭龍川まで来ると濁流がさか巻き、上流部の山稜が荒れていることを予想させたが、林道入口に到着したら案の定、小原村落で土砂くずれが道をふさいでおり、これ以上車は通行不能状態であった。村役場の職員連絡を受けて今来た所ですとのこと。先発隊の車が見えないので、てっきり通過した後に土砂くずれが起きたものと判断し、えらいことになったぞ、連絡が中断されてしまったと思った。そうこうしている間に夕闇もせまってくるので予定していた和佐盛平小屋までいけないので村の人に教えてもらい、すぐ近くに適当なテント地を探して幕営することにした。テント2張でワイワイガヤガヤ楽しく、ワインにビールに酒、焼肉、etc, etc。明日の予報も雨、不安定な空模様、夜中も小雨が降っている。明日もあまり期待出来そうもないと思いつつ、うつらうつら寝りについた。

7月14日(日) 雨、曇。 6時起床、今日の行動を決定する前にもう一度土砂くずれの現場まで行くことにした。すると先発隊が土砂くずれ手前で幕営しているではないか。これはどういう事か。平井さんどないなっているねんや。いやあ、先発隊の方が遅れて現地到着しましたとのこと。それで、後発隊を待っていましたねん。それにしても合流出来て、よかった。さて、これからどうするか、別の山へ行先を変更するか、それとも、林道を6km程余分に歩いて初志貫徹するか相談の末、八ヶ岳合宿のトレーニングにもなるから強行しようということになって、8時出発。役場の建設課の職員が現場に来ており、この奥の方にも危険箇所が数ヶ所ありますよとビビらされたが行先変更するのめったくそ悪いし、行ける所まで行け、運は天まかせときめ込んだ。林道横の溪流の状態を横目でチラチラ見ながらピッチを上げた。幸い水量も下がってきており、水も澄んできているので現時点以降ドシャ降りにならない限り、沢3ヶ所の渡渉は危険ではないだろう。一時間

ほど歩いた頃、林道左側の平地に和佐盛平小屋が草叢に半分うもれてポツンとたたづんでいた。築後5年ぐらいの新しい小屋だが、あまり利用されてないと見えて、草ぼうぼうで湿気ており、水場まで下るのが、これ又草かき分けて谷へ下るのが大変な様子がかがえる。更に進んで、朽ちた登山口の標識を見つけていよいよ山道にさしかかった。よく踏まれ歩きやすい道を20分ほど行くと二つに岐れており、我々は右へとったのが間違いだった。約1時間半だんだん消えていく道を右往左往しルートへ出られない。雨脚がひどくなり、視界がきかなくなってきたので、やむなく、元来た岐れまで戻ることにした。迷った時には原点へ戻れという諺は、なるほどとうなづける。ハブニングのロスから気を取り直して案内書の通り林道に合流し、又々山道に入る場所に立派な真新しい導標が立っている。「小原峠まで90分、赤兎山まで130分、大長山まで170分」と書いてある。そんな馬鹿な、地図と高度計で現在地点を割出したら、いくら考えても「小原峠まで30分赤兎山まで60分」でいける筈である。キツネにつままれた気分になった。「おいリーダー どんないなってんねん、この案内書は無茶苦茶やないか」登山口導標が2ヶ所に立っていたもんだから今まで苦労してかき分けかき分け進んできた登山気分が一べんに肩すかしを食ったみたいで、力が抜けてしまった。悪い事は3回あるいりて、今日は三隣亡やぞと思いながら登りにかかった。道はよく踏まれた歩きやすい道で、30分で小原峠に到着、赤兎山へも1時間で到着。やっぱり導標が間違っていた事になる。2等三角点頂上部は、展望案内板も設置されており広く立派なものであり天気さえ良ければ、すばらしい眺めだろうと思われたが、残念なり何も見えない。又一段と強く雨が降って来たので早々に下山したが、ただあまい香りをただよわせたピンク色の笹ユリと黄色のニッコウキスゲの群落が、せめてものなぐさみであった。待たせてある伊藤、原田両氏のもとまで帰り道9.6kmを急いで下ることにした。帰りになってから青空が広がってきて、まるで我々が梅雨雲を払きはらいに来たようなものだ。よりによって、梅雨最後の日を選んで苦労して来た結果となったが、伊藤先聲が途中まで車で迎えにきていただき感謝感激、あの長い林道を歩かなくてもよかった。それでも忘れられない山であり、再度挑戦しようという話に落ち着いている。

【参加者】 OB 伊藤、岡田、大槻雅、三橋、山口、原田、大槻貞 7人
他 村上グループ 3名(先発)

【コースタイム】

15:00 九条車庫 - 19:00 小原(泊) 8:20 小原...10:05 林道(登山口)...12:30 ~
12:35 林道標識地点...小原峠 13:05 ~ 13:10... 13:45 ~ 14:00 赤兎山...16:20 ~ 16:40
林道車止 - 京都 20:20

かなとこ(鉄鉦山)登山

立花 雅彦

「今度の日曜日、奥さんと一緒に来ませんか。」と、部長からお誘いがあった。以前から、ハイキング気分で行ける山があったら行きたいと思っていたし、運動不足きみでもあったので、ちょっと気が早いとは思いますが、冬場のスキートレーニングのつもりで参加させてもらうことにした。

今回は、何やら府県境の山シリーズの第4弾として『かなとこ山』という山を登るとのことであった。当日、私達(私と愛妻の2人)は、すっかりハイキング気分、勿論、半袖シャツ・スニーカーという軽装備で家を出た。

午前7時、壬生交通局前には女性3名を含む12名が集まり、途中、洛西ニュータウンで1名を加え、総勢13名で一路『かなとこ山』へと向った。ちょうど夏休みに入ったところということもあって、さすがに国道9号線は日本海へ向かう車で混雑していた。

車を走らせること約2時間、私達は『かなとこ山』の登山口に到着した。ここで私は、初めて『かなとこ山』が『鉄鉦山』と書くことを知った(事前に部報を見ていなかった)。文字から想像するに、いかにも険しく、厳めしい感じがしたが、ここまで来たからには心配しても仕方ないと思い、少し腹ごしらえをして出発に備えた。

歩き始めて数分後、思った通り道が途切れた。心の中で「ヤバイ!」と感じつつ、案の定、藪漕ぎで前進することになった。ここでハイキング気分は吹飛んだ。幸か不幸か、朝から天気も良く、背丈程もある草木をかき分ける私達にとっては、まるでサウナ風呂でシャドウボクシングをしているかの様だった。道なき道を進むにつれ、交す言葉もだんだん少なくなり、皆何かに付かれたように、ただ黙々と頂上を目指した。急な登り坂が暫く続き、少し開けた、頂上まであと少しの場所で休憩することにした。この時、津田さんが暑さにやられてダウンした。本当に珍しいことであるこの時、皆早くも、あれが欲しいとか、これが欲しいとか、津田さんの形見分けの話が始まった。勿論、冗談ではあるが、皆恐ろしい仲間である。(実は僕も、津田さんの外国のコインでできたペンダントを狙っていた。……冗談、冗談)

暫くして、津田さんも回復したようなので、頂上までもう一頑張りすることとした。例によって頂上ではバンザイを三唱した。そして、頂上には適当なスペースがなかったので、さっきの場所で食事することになった。温かい味噌汁あり、焼肉あり、ニラ炒めあり(なんでも屋の古市さんのお蔭)、山の上の食事とは思えない程のご馳走が並んだ。つめたく冷えたワインが出てくる頃には津田さんもすっかり元気をとり戻し、まるでさっきの出来事がウソのようだった。やっぱり津田さんに効く薬はアルコールが一番だ。

だんだん空模様が怪しくなってきたので、食事を急いで切り上げたが、三角点だけは捜してから

帰ることにした。無事、三角点を見つけ、下山する頃にはポツリ、ポツリと雨が降り始め、遠くの山間では稲光りが恐ろしそうに光っていた。雷が近づいて来る様子なので、皆だんだんと足早になっていったが、私達はスニーカーであることもあって、濡れた草に足をとられ、皆に追いつこうと必死だった。雨は次第に強さを増し、雷は頭の真上で鳴り響き、我々は全身ずぶぬれになって降りて来た。やっとの思いで、ふもとの休憩所まで降りてきて、洋服を着替えたあと、そこで熱いきつねうどんを食べた。山の上で食べた食事も美味かったが、冷えきったからだけに、このきつねうどんは格別だった。

暫く休憩した後、ケガ人もなく、皆揃って帰路についた。今回の山行きは、一日で山の楽しさ、苦しさ、恐ろしさを一度に経験することができて、本当にいろいろな意味で良い勉強になったようだ。

最後に、この夜、私達2人は死んだように熟睡することができた。“これに懲りずにまた行こう。これで病み付きになりそう?!”

【参加者】 武田、鷲見 F 2、古市、和田、津田、村、横井、立花 F 2、渡辺 F 2、岡田
計 13名

【コースタイム】 みぶ 7:10 - 洛西 7:45 - 竹ノ内 10:45 - 登山口駐車場 11:00 ~ 11:25
...旧鉾洞跡 12:05...コル 12:35 ~ 13:00...鉄鉾山 13:10 ~ 13:20...コル 13:30
~ 14:30...三角点ピーク 14:40...駐車場 15:30 ~ 15:45 - マス釣場 16:00 ~
17:00 - 京都 20:30

北海道の山旅

坂井久光

日本山岳会北海道支部創設80周年記念の通知を受け、7/10京都を出発。7/11函館に夕刻着いたがひどい雨で、車で湯川温泉へ行き一泊。翌12日札幌に行き商大同級の森田と会い、集合場所近くの北海道会館に泊った。後で会員の入谷も同泊していたことが判った。

午前3:30出発の為フロントに頼んで起してもらい道庁北門へ集合。マイクロバスで増毛町へ。久しぶりで平野・望月・柳田の諸姉に会い、早朝の国道をひた走り、やがて夜明の海岸のトンネルを巡ったり峠を越えたりして私には有難いような名前の町へ着き少憩後林道を走って暑寒別荘の駐車場へ着いた。

約10kmの緩い登りのコースだが暑くて人数が30人位の多数で、今西錦司氏の娘、河村皆子さんも来られ、ヤンキー娘のVALERIE RISNER、ARIENNE PNYERの二人も混り、甚だにぎやかだった。虫が多く汗をかき、虫を払い乍らひたすら登り、途中ウコンウツギ、エゾオセンチチバナ等の始めて見る草もあり、次いでシラネアオイも美しく咲いているのが見られ、山頂近くでは四葉シオガマ始め、白山チドリ、シナノキレバイ、チシマキキヨウ、ウサギキク、アヅマギク、

コケモ、チシマフクロ等の高山植物のお花畑もあり、雪田もあった。山頂の展望は流石すばらしく、一等三角点の貫録充分の展望で、前方に群別岳や浜益岳が聳え左に雨竜沼の湿原が見え、振向けば日本海が望めた、暑寒別岳1,491mであった。昼頃登頂し楽しい昼食やおやつやお点前・コーヒーの交換で外人娘も楽しんでいた。

18時頃下山し、バスでシーサイドホテルで一泊、晩食となったが、東京の佐藤テル、岸栄の2人が仲々下山しないので心配しているが、21時頃無事下山。岸さんは病気で入院した。翌14日札幌に帰り15:30から道庁別館でヒマラヤを語るの講演が、鹿野、越前谷、戸谷の各氏で行われ会長、今西寿雄、前会長、佐々氏の挨拶があり、次いで晩餐会となり、佐々氏夫人が綾部市の出身で同志社高女の出と知り、京都から来た私を懐しがり話合った。

次いで有志でススキノのバーの2次会で飲を費し散会してその晩は始めてのカプセルホテルで泊った。翌15日、一昨年世話になった深川市の田中宅へ行き、久瀧の挨拶をして一泊。翌日田中さんから聞いた三頭山1,009mへ、深川線政和温泉へ国鉄で行き、林道の登山口から登ったが、立札に熊出没注意が書かれていて余り良い気がしない。時々笛を吹いて鈴を鳴らして登った。山頂直下でエゾハナシノブが咲き、シラネアオイも少しはあり、行者ニンニク(アイヌネギ)の群落があった。白樺やトド松、ミツナラの巨木があり、山頂の展望は雄大で日本海が見え、暑寒別岳始め留萌の山々が見えた。

翌17日、滝川から新十津川町へ行きタクシーでピンネシワ1,100mの登山口沙金沢へ。少し登ると避難小屋があり、尾根に登って長いコースを辿る。登り下りもあり、山頂直下迄大部かゝるが、岩峰を越えて本峯に迫る頃エゾキスゲの群落で、四葉シオガマやエゾフクロ等が咲き乱れてガスのかゝった山頂には山神の碑と小祀があり、勿論一等三角点もあった。ガスで展望なし。雨の心配があったが無事下山し、滝川からバスで深川へ。将棋クラブで時間をつぶし、田中宅へ行き夕食後礼を述べ、利尻岳へ向って山旅に出ると告げ、夜行列車を待つ間クラブで将棋を楽しんだ。

翌18日、稚内から利尻島へ渡り民宿で一泊、19日利尻岳神社の横を通り、キャンプ場一甘露水を経て急坂を登ると長官山1,218mの一等三角点があり、小屋もある。一服して急登すれば頂上の小祀のある処に着いたが、大阪からの女学生2人と他に関東の男が1人いた。展望は快晴に望まれ、礼文島や鷺泊が眼下に見える。

高山植物も頂上附近の岩場に多く谷に残雪があった。往略下山、鷺泊のベシ岬の一等三角点へ登って夕刻下山。翌20日、斜里へ行き一泊。

翌21日斜里岳登山口行始発バスで終点の温泉宿へ行き、ヒッチして清岳荘に行き一緒に登った。コースは沢登りで渡渉カ所が多く高巻いては又谷へ出て滝を登り、奥二股に出て瀧谷をつめ鞍部に出て葡松の茂る急坂を登り頂上へ。百名山の山なれどガスの為海別岳がよく見えたが、余り展望はきかなかったが、麓の景色は望められた。高山植物も可成りあり、二等三角点の標石は探したが見つからなかった。頂上に来た人(日曜で多かった)に聞くと、昔今西先生の登られた時はあったが消滅したらしい。

往略下山して清岳荘に着き、ヒッチして清里駅に行き、国鉄で斜里へ行きバスで岩尾別の龜の嶽

ホテルへ行き一泊。翌22日ユースホテルからバスで来た学生の一団と一緒に出発。弥三吉水水場や銀冷水の水場で一服して羅白平へ。その手前の谷間では雪渓があり一人が疲れて遅れたが、励まして登った。頂上直下で雷雨となり、雨具を持たぬ者もいて私のヤッケや傘を貸してやった。おかげで頂上は展望なし。急な岩場の登りは流石きびしかった。頂上は狭く、岩に金属の三等三角点が含まれていた。羅白岳1,660mは百名山の一つであるが、雨の為に良さが判らない。少時皆で万才三称後下山。ルートハンデングに時間がかかり、羅白平に下山したら雨は上っていた。一同年長の私に礼を云って喜んだが若い人は無茶だから困る。

往路下山してホテルでビールで乾杯。露天風呂で汗を流して着替えてさっぱりする。宇都呂へ福岡の学生の車で行き、斜里行のバスに乗換えて斜里へ行き駅前旅館で一泊。

翌23日弟子屈駅へ行き、阿寒バスに乗り換え阿寒湖畔のユースホテルへ。車中知合った米人Philipと荷を置いて軽装で雄阿寒岳へ。登山口迄タクシーが行き、湖畔の登路を辿り、5Km、4Km、3Km、1.5Kmの標示を頼りに登るが、頂上近くでピークを二・三越えて漸く二等三角点1,371mに着いた。二人万才三称後雨が降り出す。私の雨具を貸して下山。途中で止んだがノンストップで1時間20分で登山口へ。折よくバスが来て湖畔へ。茶店でアイスコーヒーを飲み一息ついて帰舎。夕食はスイスからの若夫妻の一组もあり、大方学生だが、会話が不得手かベアレントとの対話を私が通訳して彼等に伝へ、アンケート(夕食後)もとった。

翌24日、Philipと2人で雌阿寒岳・阿寒富士へ登ることになった。彼は日本語も少々出来、ミネソタの生れで自然の好きな元気な青年で、国鉄全バスが63円で買えたと私に見せた。外人丈のものか。

オンネット行バスの登山口から登るがよいとのホテルの人の言葉で、ヒッチして登山口へ行ったがどれが登山道か判らず林道へ入ってワンダリングして送電線鉄塔に出て行事の車の人に会って、登山口からオンネットの方へ行き雌阿寒温泉の横から登山道があるとのことで、元の登山口へ。雌阿寒温泉へ歩いていると車が来てヒッチして温泉へ。良い登山道があり、三合目で一服して五合目で再度休んで雌阿寒岳1,499mへ。寒い噴火口や火口湖が崖下に見える。ガスが湧いて展望は良くない。山頂で弁当を分けて食べ一服して阿寒富士へ。一旦コルに降下、急な登りをジグザグに登り切ると一等三角点のある山上へ。高山植物も少しはあるが、少し殺風景な岩や石ころの小広い山頂でガスの為展望はきかなかった。少時休んで往路下山。温泉で飲んだ缶コーヒーは冷く甘かった。途中ヒッチして湖畔へ。彼はもう一日泊って行くとのこと。宿で別れてターミナルからバスで釧路へ。釧路から国鉄の夜行で札幌に乗換えて函館へ行った。河村皆子さんや横田さんと大千軒岳へ登る為だ。函館に着き河村さんへ電話すると、26日は都合が悪いとのこと。民宿に宿をとり、横田君に電話で連絡する。旅費も少くなり銀行で引出し床屋へ行きさっぱりする。その晩横田君が宿へ来てくれ明日の山行を打合す。

彼の車で早朝宿へ来てくれ海岸沿いの国道を飛ばし、大千軒岳登山口の奥二股へ。駅から約6Kmの奥で車でなければ日帰りは無理だ。知内川沿いに高巻いて広河原へ。一服して彼は遅い朝食を食べて少憩後出発。千軒なる地名は鉾山によくある名で、彼の話では昔(江戸時代)隠キリシタンが

此の地(当時鉾山で人が多かった)へ逃げ込んだのが幕府の知る処となり捕まって山麓の処刑地跡に石碑や十字架があった。広河原はキャンプサイドでその跡があったが、空瓶やゴミ等が沢山ありマナーの悪いのが彼と共に不満だった。川原を歩いて左へ曲って谷を渡って沢クルミ・ヤチダモ・ミズナラ・トド松の多い樹林の中を小沢沿いに廻り白樺の林を通り処刑地で一服。好天気で暑く汗が流れる。

再び小広い河原に出て道を失いかけたがすぐ見付かり支谷に入り小尾根を越して谷川の上流に出て急な支尾根の登りになる。一挙に500m程の高度を稼ぐ急斜で新しい回道が出来ている程で、旧道のけわしさが判る程で約1/2の勾配である。所々にザイルがかかりぐんぐん登って途中のくびれで一服して草原の稜線に出た。一面のエゾキスグの群落で此所にも十字架が立っていた。本峰はすぐ間近に見えたが、こゝで昼食にする。前千軒岳との鞍部である。又来道の頃の夕刊に此の山麓で熊に襲われて怪我した人があると出ていた。道南でも一番山深い処である。食後一休みして軽装でピストンする。山頂の左に水場への道あり。冷い湧水があり持参の宇治清水で飲むと甘い。白山チドリ、四葉シオガマ、エゾハナシノブ、フウロ草等が咲いたり生えていた。山頂は小広く西からも道が上っていた。展望は360°に展げ前千軒岳やセツ岳・黄金山、西に笠形の笹山が見えた。上瀬川からの林道が奥迄入っているのが見えた。展望を楽しみ二人で万才三称して下山。水場で補水して鞍部に戻り往路下山。車で知内温泉へ行き入浴して汗を流し木古内で彼と別れて江差へ。江差は古くから開けた町で江差追分で知られる港町で、昔は北国廻船や鱈漁で賑ったが、今は奥尻島の玄関口や附近の中心地として命脈を保っている。

彼から函館附近の一等三角点の山の登路を聞いたが殆んど道がなく、夏はととも一人で登れぬ山が殆んどなので、安全な奥尻島を目指した。

翌27日、早朝出発してフェリーで奥尻港へ。タクシーで自衛隊へ。電話しておいたので衛門へ係官が出迎えてくれ三角点へ案内してくれたが、すぐ近くで頑丈な囲がしてあり新しい石標で最新移設された様子を物語っていた。レーダー基地の為余分な所へは遠慮して少時写真を撮って退所。長い車道を下る。国道の分岐を過ぎて青苗へのトラックをヒッチ、その儘青苗へ行き昼食後岬の一等三角点を探しに出かけた。小高い岡の上に無線塔が立ちこの辺と見当をつけて行くと、東側に標柱が見え草を分けて突進、笹藪の中に切開かれて標石があった。案外簡単で町で聞いても知る人はなかったが、滅多に来られない処で感慨一しほであった。バスの時間に大分時間があり郵便局前迄行って時間をつぶす。海水浴客が多く民宿や旅館も満員で食堂も一杯であった。暇があれば島内の他の三角点球島山や幌内温泉や神威脇温泉をも訪れたかったが見合せて、奥尻港から江差へフェリーで渡って江差へ戻り函館に帰って夜行で札幌へバスで行き、翌朝バスで定山溪温泉へ行き昔泊った山水ホテルに荷を置いてバスで豊平ダムの登山口へ行き、冷水沢コースをとって札幌岳へ登った。日曜なのでダム迄人は多かったが、少し遅かったので同行は夫婦連の二人丈だった。殆ど一息で立派な山小屋の建つ冷水沢の水場へ。こゝで一休みして下山して来た人達と話したりして急坂を登った。一挙に200mは稼ぐ急斜をジグザグに登り、一旦平になって又一段と急坂が続き尾根筋に出ると平坦となり、沢筋に入って又一しきり登ると緩い道となり白樺林を通過して蘆松の茂る

山頂へ。山頂は流石一等三角点丈あって展望広大。附近は岩峰で東・南面は急崖となっている。空沼への縦走路が上っていた。南に恵庭岳が雲間に見えた。西南に中山峠への車道がよく見えた。北面はガスで遠くは見えなかった。展望を楽しんで下山。冷水沢の小屋で一休みして往路下山。ダムの次のバス停迄林道を通り車道を歩く。丁度バスが下って来て定山溪へ。温泉で汗を流し着換えて洗濯して夕食后街へ出て見ると河童祭をやって客を呼んでいて、広場は屋台が並んでいた。しかし観客は少くもう一つ盛上ってなかった。

翌日洞爺湖行のバスに乗り洞爺湖温泉へ。喫茶店で昼食をとり荷を預けてバスでスキー場入口へ幌内山625mへ登る計画だ。地図で見るとリフトが2つあり、山上近くへ上っている。距離は大してないし切開位あるだろうと思って登ったが、第一リフトの終点からは全く道はなく千島笹の藪で僅の距離に汗を一升程流すハメになった。そして難儀の末登った山頂はグリーン線の線も鮮かで、処に白樺の立つゴルフ場になっていた。後で聞いたところでは、豊田商事が一時買占めた所とのこと。馬鹿らしくなってへたへたと腰を下ろした。しかし展望はよく東に洞爺湖や羊蹄山、西に内浦湾(噴火)の風景を眺める好展望台である。クラブの喫茶店でアイスコーヒーを飲んで車道をゆっくり下山。国道でヒッチして洞爺湖へ。宿で温泉に浸り汗を流し汚物は洗濯して夕食后街へ出て旅情を楽しんで帰り就寝。

翌7/30 登別温泉行バスに乗り湖畔を走ってオロフレ峠を越え登別温泉へ。途中右手に有珠山や昭和新山の火山の噴煙が見え嘗て噴火で洞爺湖温泉街も灰で埋り廃居と化したことは有名である。登別温泉は前にも来たことがあり、滝本ホテルの千人風呂は有名で熊牧場やアイヌの熊祭り等懐かしい思い出がある。小宿を見付けて荷を預け、室蘭行バスに乗り東室蘭で下車。

昼食后車で望洋台霊園の登山口迄。鷲別岳(室蘭岳)へ登らんが為である。山麓の山小屋の老人は今年今西先生もお見えになったとか。名簿に今西先生や皆子さんの名が見える。一休みして登ったが奥が深く山頂に遭難碑と一等三角点があり、横に吊鐘があった。室蘭高工の先生一行と会い、少憩後カムイヌブリへ下山。一旦下って鋸の様な上り下りの果山頂へ。ここからバス道迄は長い下りで川を渡り、小峠や小尾根を越えて樹林帯を歩き廻った。最後の小峠を越えてダム湖畔の車道の登山口へ出てほっと一休。途中エゾ鹿の鳴声が聞えた。鷲別はガスで展望はきかなかつたが良い山だった。暫くして車をヒッチして幌内へ。国道へ出てバスで灯がつく頃登別温泉へ。風呂に入り疲を医して就寝。

翌8/1 国鉄で新得へ行き、バスでトムラウシ温泉へ。町営宿舎で平日だったが満員となった。流石道内の名山で全国から人が集るらしい。静岡の熊沢さんと知合い、翌8/25時少し前に二人で出発。仲々早い足どりでついて行くのがやっとながら、カムイ天上の手前で一息。カムイサシケ沢の水場で二度目の休憩をとってから沢を登り雪沢の出る頃彼の足は遅くなり次第に休憩が多く現われる高山植物をかよりに撮ったりしてテンポが遅くなった。

後の連中は仲々待っても来ない。彼は富士フィルムに勤めているとか。50才で私が61才と云うと吃驚していた。岩や蘆松が現われ、高山植物のお花畑や美しい池や谷川の畔を通り、ガスに包まれた山頂へ。三角形の岩山のある辺り駒草も有磯帯に保護されて沢山咲いていたが、昔は大群落

であったとか。白山チドリ、小桜チングルマ、シナノキンバイ、四葉シオガマ、ミヤマリンドウ、千島キキョウ、アヅマギク、ウサギギク、コケモイ、リュノヒゲ、ツガザクラ、エゾハナシノブ等花が一杯の楽園。縦走路で昼食休憩して頂上へビストンする。山頂は中大始め、札幌の登山者で一杯。学生大キスで十勝岳へ行くとのこと。私に水場をリーダーが聞いて答えてあげた。元気な若者に別れを告げ、一等三角点を写し、百名山に別を告げた。

此の山はカムイ天上迄、始め100m位急登して平坦な山麓帯を長く辿り、一旦湿地帯に下り急登してバカ尾根を辿りカムイ天上へ。ここから沢に下り沢筋をつめて露岩帯に上り、登り下りを経て頂上へ。約11kmと書いてあったが、実質15.6kmに思える長丁場。下山して露岩帯で後発の連中と会った。その後小雨が降って来たが大したことなく無事温泉へ。バスは一日一便なので明朝しか出ないので又一晩泊った。宿の管理人は此の辺の山に詳しいとのこととで会って色々話を聞いた。

翌8/2日 新得から旅費が尽きたので帯広へ行き銀行で引出して札幌行特急で札幌へ。バスで小樽へ行き土産を買ってフェリーに乗船。

8/4 6:00 舞鶴海岸、夜明けの舞鶴港は波静かで緑の島山が美しく、昔復員で上陸の頃が思い出され懐しかった。西舞鶴駅迄重荷を担いで行き特急で二条駅へ。長い山旅を終えた。

〔コースタイム〕

- 7/10 12:17 京都—13:28～13:34 米原—16:58～17:22 浜松—19:31～19:34 三島—
22:02～22:04 東京—22:13～22:30 上野
- 7/11 12:17～14:50 青森—18:45～19:00 函館—19:13 湯川温泉ホテル(泊)
- 7/12 8:27 発—9:00～9:30 函館—13:35 札幌(泊)
- 7/13 3:35 出発—6:20～6:32 増毛町—7:05 暑寒別荘…7:35 1合目…12:10～13:40
暑寒別岳△…17:05～17:30 小屋…18:00 シーサイドホテル(泊)
- 7/14 札幌14:00(泊)
- 7/15 10:00 出発—11:20 深川(田中宅)泊
- 7/16 6:12 深川—7:58 政和温泉…9:00～9:05 アト4km…9:13 林道終点3.6km…
9:24 アト3km(馬の背)…9:31～9:36 見晴台…10:05 アト1.6km…10:32
天女台アト0.6km…10:43～11:00 三頭山△…11:11 天女台…11:49～12:05 休
12:12 見晴台…12:27～12:34 林道終点3.6km…12:50～12:55 休…13:12 林道
分岐(入口)…13:42 国道…14:00～15:07 幌加内…16:12 深川
- 7/17 7:06 深川…7:31～7:43 両竜三丁目…8:01 橋本町…8:25 菊水町…8:45 登山口
9:26～9:31 林道…9:42 アト3km…10:06～10:11 アト2km…10:56～11:05
ビレネシリ…11:35 水…11:53 3km…12:00～12:18 林道…12:36 5km…12:55
登山口…13:42～13:45 休…14:05 5.5km…14:32 スキー場入口…15:00～15:10
橋本町…15:15～15:37 滝川…16:38 深川バスセンター…23:18 深川駅
- 7/18 6:00 稚内—6:15～7:10 港—9:10～9:20 鷺泊港—9:23 小田民宿(泊)
- 7/19 7:10 出発—8:14 甘露泉…9:00～9:05 休…9:20 6合目…9:51 7合目 2,590m

- 10:00 ~ 10:05 休... 10:32 ~ 10:45 長官山一等△... 11:17 9合目... 11:42 沓形コー
 ス... 11:57 ~ 12:30 利尻岳△... 12:48 9合目... 13:50 7合目... 14:12 ~ 14:20
 6合目... 14:39 5合目... 15:08 ~ 15:15 甘露泉... 15:58 利尻岳神社... 16:03 ~
 16:09 民宿... 16:15 ~ 16:47 喫茶店... 15:00 ~ 15:05 ベシ岬... 17:30 民宿 (泊)
- 7/20 9:30 篤泊港 7 11:20 ~ 11:43 稚内 - 16:57 ~ 17:37 旭川 - 21:47 ~ 22:03 網走 -
 22:49 斜里 (泊)
- 7/21 6:30 バス出発... 7:05 登山口... 7:25 ~ 7:40 清岳荘... 8:12 ~ 8:20 二股 (6合目)
 8:49 ~ 9:02 休... 9:10 7合目... 9:48 ~ 9:55 上二股... 10:28 ~ 10:42 馬の背...
 11:00 ~ 11:57 斜里岳△... 12:10 馬の背... 12:28 ~ 12:40 上二股... 13:13 竜神の滝
 ... 13:15 ~ 13:20 万丈の滝... 13:55 ~ 14:00 二股... 14:32 ~ 14:40 清岳荘... 15:04
 ~ 15:08 清里... 15:27 ~ 16:30 斜里... 18:10 岩尾別温泉地の 崖 ホテル (泊)
- 7/22 7:13 出発... 7:45 ~ 7:53 5,840 m... 8:30 ~ 8:45 弥三吉水... 9:27 ~ 9:32 銀明水
 10:20 ~ 10:35 羅白平... 11:20 ~ 11:25 羅白岳 3等△... 12:20 ~ 13:00 羅白平...
 14:10 ~ 14:22 弥三吉水... 15:30 ~ 16:15 岩尾別... 16:45 ~ 17:25 宇都呂... 斜里
 18:20 (泊)
- 7/23 7:42 斜里... 9:01 ~ 11:10 弟子屈... 12:15 阿寒湖... 12:35 登山口... 13:05 ~ 13:12
 5 Km... 13:37 4 Km... 14:05 ~ 14:13 3 Km... 14:57 ~ 15:03 1.5 Km... 15:28 ~
 15:40 雄阿寒岳△... 15:57 1.5 Km... 16:27 3 Km... 16:44 4 Km... 16:00 5 Km ...
 17:26 登山口... 17:35 阿寒ターミナル (泊)
- 7/24 8:10 出発 - 9:00 登山口... 9:47 ~ 10:06 鉄塔... 10:43 雌阿寒温泉... 11:10 ~ 11:15
 3合目... 11:32 5合目... 11:45 6合目... 11:50 ~ 11:55 7合目... 12:08 8合目...
 12:22 ~ 13:00 雌阿寒岳... 13:34 ~ 13:58 阿寒富士△... 14:30 ~ 14:35 雌阿寒岳
 14:43 8合目... 15:09 5合目... 15:36 1合目... 15:45 ~ 15:50 雌阿寒温泉...
 16:10 ~ 16:20 ユースホステル - 16:40 ~ 17:20 バスセンター 19:10 ~ 22:25
 釧路
- 7/25 6:25 ~ 6:30 札幌 - 11:45 函館 (泊)
- 7/26 7:00 出発... 8:50 ~ 9:00 奥二股... 9:41 ~ 10:00 広河原... 10:40 ~ 10:45 ㈬ 3 1
 遭難碑... 11:05 尾根口... 11:25 ~ 11:30 休... 11:40 ㈬ 4 0... 11:49 ㈬ 4 5... 12:14
 ~ 12:40 稜線... 13:10 ~ 13:20 大千軒岳△... 13:45 ~ 13:50 稜線... 14:40 ~ 14:45
 遭難碑 ㈬ 3 1... 15:17 ~ 15:25 広河原... 16:05 ~ 16:10 奥二股... 16:35 ~ 17:00
 知内温泉... 17:45 ~ 18:01 木古内... 19:10 江差 (泊)
- 7/27 6:40 江差港 - 9:10 ~ 9:30 奥尻港 - 10:00 ~ 10:05 神威山△... 11:26 奥尻町堺...
 11:30 ヒッチ... 12:20 青苗... 13:15 ~ 13:20 青苗一等△... 13:40 ~ 14:16 郵便局前
 ... 14:54 ~ 16:10 奥尻港 - 18:40 江差港 - 19:00 ~ 19:50 江差駅 - 22:14 ~ 23:55
 函館

- 7/28 6:30 ~ 8:00 札幌... 8:50 ~ 10:25 定山溪温泉... 10:37 冷水沢登山口... 12:00 ~ 12:30 山小屋... 13:41 ~ 14:09 札幌岳△... 14:56 ~ 15:15 山小屋... 16:44 豊平峡分岐... 16:53 定山溪温泉(泊)
- 7/29 8:55 出発... 11:00 ~ 12:00 洞爺湖温泉... 12:10 月浦口スキー場前... 12:40 ~ 12:45 休... 14:21 ~ 14:30 幌内山△... 15:45 下山... 16:10 洞爺湖温泉(泊)
- 7/30 7:54 出発 - 8:10 ~ 8:20 ターミナル... 10:00 ~ 11:10 登別温泉... 11:50 ~ 12:19 東室蘭... 13:03 霊園登山口... 13:43 ~ 13:55 白鳥ヒュッテ... 14:48 ~ 15:07 鷲別(室蘭)岳△... 16:14 ~ 16:22 カムイヌプリ... 17:33 ~ 17:35 カムイヌプリ登山口 17:46 ~ 17:48 幌別本町 - 18:20 登別温泉(泊)
- 7/31 10:10 登別温泉... 12:06 ~ 14:14 千歳空港 - 16:00 ~ 16:20 新得 - 18:05 トムラウシ温泉(泊)
- 8/1 4:41 出発... 6:34 カムイ天上... 7:07 ~ 7:17 カムイサシケ沢... 8:12 ~ 8:32 休... 10:07 ~ 10:26 休... 10:48 ~ 11:07 トムラウシ△... 13:39 水場... 14:15 カムイ天上 16:07 トムラウシ温泉(泊)
- 8/2 8:15 出発 - 9:50 ~ 10:24 新得 - 11:03 ~ 13:08 帯広 - 16:04 ~ 16:35 札幌 - 17:40 ~ 19:00 小樽(港)
- 8/4 6:00 ~ 6:20 舞鶴港 - 6:50 ~ 7:11 西舞鶴 - 8:53 ~ 二条駅

至仏山と尾瀬ヶ原

吉 田 武

「夏が来れば思い出す……」と歌に出てくる尾瀬、以前に行った時は大雨と雷で苦勞した思い出がある。梅雨明け10日と言うように暑い日が続く中・・・7月24日の早朝にファミリーで京都を出発した。中央高速の恵那山トンネル少し手前で車のトラブルがあったが、そのまま走っても差支えないので中央高速を諏訪ICまで行く。諏訪ICから茅野市を通過してR299号を麦草峠を越えてハチ穂村、そしてR141号を佐久市まで来た時に車の調子が悪くなったので、近くのディーラーに修理を依頼する。約1時間30分で修理が出来たのでほっとして先を急ぐ事にした。

R18号を御代田町より軽井沢、そしてR146号を長野原町から中之条町へ途中ではほとんどトイレ休憩しなさいないで、沼田市からR120号を鎌田へ、そして戸倉へ車を進めた。PM6:00 やっとの事で鳩待峠へついた。駐車場は時間的にまだ空いている。すぐに食事の用意をする。焼肉とサラダなので早く出来るが、御飯が少しかかるようなので僕は、焼肉をしながらビールで夕食をすませた。25日、5時に起床した。うどんを朝食をすませて鳩待峠へ向った。駐車場は満車なので峠より少し下った広場に車を置いて至仏山へ向った。樹林帯の中は涼しかったが、抜けると太陽

が照りつける暑い登山道である。オヤマ沢の水場を過ぎ、オヤマ沢田代で休憩をする。これからは小至仏山への登りである。ピークに登らずに腹を巻いて越すコースをとった。そして頂上直下の岩場を過ぎるとすぐに二等三角点が目についた。燧ヶ岳、平ヶ岳、そして越後の山と日光連山がよく見えた。以前に途中で引き返した所から約30分位で標高2228mの頂上についた。子供達に明日歩く尾瀬ヶ原を教えて暫く休憩した。康一(3才)も今日は鳩待峠から小至仏山まで歩いたので、帰りは半分位歩いてくれたら良いなあと思って頂上を後にする。

小至仏山までは岩がゴロゴロしている道なので康一は背負う事にした。時間的には余裕があるのでゆっくりと歩いた。11時に鳩待峠についた。汗に濡れた衣類を着換えてすぐに峠を後にした。戸倉温泉の千代田館で風呂に入って、その後で今日の食料と水を補充してキャンプをする場所を探して行った。戸倉スキー場が戸倉温泉にあるので、今日はここでキャンプをした。時間は十分にあるので整地及びテント設営に時間をかけた。今日の料理は娘達がカレーライスを作る予定なので、出来るまでの間に焼肉をしながら待っていた。やがてグラウンドシートの上が出来上がったカレーライスが運ばれて来た。大変おいしかった。明日の行動は鳩待峠より横田代、富士見平から見晴十字路、そして尾瀬ヶ原を東から西へ縦断して山ノ鼻から鳩待峠までの行程であるので、早々に寝るようにした。26日、AM4時30分起床してうどんを作って昨夜のカレーを入れて食べた。今日はお茶が多く飲みそうなので各自水筒に一杯詰め込んだ。テントを撤収してスキー場より鳩待峠へ急いだ。AM6時、鳩待峠の小屋の横から登山道がある。高原地図には鳩待通りと書かれてある。所々に板が敷いてあったが、樹林帯を過ぎると富士見小屋まで板が敷いてあった。横田代あたりに来ると燧ヶ岳が顔を出して、尾瀬ヶ原を挟んで遠くに平ヶ岳や巻機山の稜線が見えている。暫く行くと中ノ原の三等三角点があった。最高の天気で池塘に栄えるニッコウキスゲが大変に美しい。長沢新道の分岐より150m位で富士見小屋についた。軽い食事をして見晴十字路へ向った。約2時間20分で見晴十字路についたが、このコースは樹林帯の中なので暑くはないがダラダラと長い下りで大変にしんどかった。この十字路には冷たい水が湧いているので水筒に入れて、そして顔を洗って出発した。昨日登った至仏山を見ながら板の敷かれたコースを竜宮小屋へ・・・早苗が足が痛いと言ったので背負って歩く事にした。康一は板の上を元気よくみゆきと歩いてくれたので助かった。竜宮小屋は素通りした。ここからは尾瀬ヶ原のメインなのでゆっくりと楽しみながら歩く。西田代この辺はニッコウキスゲの群落で一面に咲き誇っている。適当な休憩所もあるのでその度に休憩しながら山の鼻についた。ここから鳩待峠までの1時間30分の登りが大変つかれた。ノンストップで早苗を背負って登り切り、そして後続の康一も疲れて来たので迎えに行き背負って鳩待峠についた。峠には多数の観光客が来ていたので早々に車に乗り込んで、昨日キャンプを張ったスキー場で荷物の整理をした。これで2日間の尾瀬にサヨナラをして次のキャンプ地、老神温泉へ行く。片品川の川原でテントを張った。老神温泉の入浴料が300円也で汗を流してワインで乾杯をした。

27日、全員がそろそろ疲れが出て来る頃なので、朝はゆっくりとするつもりだったが周囲が明るくなるので自然と目が覚める。ラーメンで朝食を済ませて谷川岳一ノ倉沢まで行く事にする。沼田市から水上町までのR17号が混雑して一ノ倉直下まで2時間もかかった。

一ノ倉沢を正面に見て、左から沖ノ耳、そしてA・B・C・Dと各ルンゼ、正面に南稜、鳥帽子沢スラブ、衝立岩正面壁、上部に鳥帽子岩、コップ状岩壁と続いている。写真を取りながら暫くはただ見ているだけで満足していた。子供達は正面の沢上にある雪溪から出て来る冷たい水で遊んでいた。これで今回の予定はほぼ消化したので帰路につく。当初は車山高原か入笠山でキャンプを張る予定であったが、子供達も飽きて来たようなので、水上町から新治村を越えて中之条町、そして長野原から軽井沢に出て、ほぼ往路と同じコースを名神の竜王ICより実家へその日のPM10時についた。朝、老神温泉を起きてから約700Km走った事になる。我ながら良く走ったものだ。

登山 + お詣り + 酒 + 麻雀 = ?

芦本 与太郎

△クソ暑いのに重い荷物をセッターオウテ、山なぞ登って何がオモロイ！ △ウス暗い、タバコ煙る中で、夜の遅いまでチーボンやって不健康な！ とは言うものの、どちらも楽しい。人間の趣味にはイロイロあるが、これ位両極のものも珍しい。片や男のロマンであるし、片や人と人との心理戦。「この二つを一緒にやろう」という企画をした。西田幾太郎の絶対矛盾の自己同一というわけだ。具体的にいうと、愛宕山に登って清滝で麻雀をする。そのジョイント接着剤としてスキャキで一杯やる。当世流行のトライアスロンと行こう。

思いつきはよかったのだが、さて実行するととなると、ナカナカである。メンバーが集らない。山の仲間は麻雀など存じない。雀士は山など登れない。両方行く者が無いのだ。「山と一杯までなら行く」「山は勝手に登って来い。下でスキャキの用意をして玉子を割って待ってたる」などと言い出す。切り売りは趣旨に反すると、「通し」しか認めない。やっとのことでメンバー5人を揃えて出発。

7月21日(日) 7:05 清滝出発。正面参道から愛岳山頂へ。9:00 頂上着。神社参詣。(麻雀に勝つことばかり頼んでもアカンぞと注意) 小休止のあと下山。10:45 清滝着。入浴のうえ一杯。箸を置くなりゲーム開始。道中、休み休み、タラカシ乍らなんとか全員無事下山したものの、山の中ではものも言わず、カタで息をしていたのに、下でビールを口にした途端、ベラベラしゃべる人もいたが、その人の名は言えない。ともかく体力と知力を競ったのでした。

愛宕山をジョギング姿でカケ登る人に何人か出会う。次はこれをやろう。(勿論ジャンも) 因みに、後の戦績はヒトリ負けでした。

〔参加者〕 金井、阪本、野島、山田、荒田(以上市役所)

個人山行報告

畑 照 人

1月6日 山岳部初山

半年につき亀岡の牛松山と決まる。退職者と還暦者のお祝行事も共にやろうかとの意見も出て、いろいろと検討の末に初山のみにする事になったもの。下山後の新年会は割愛して帰宅する。

1月12日～13日

十二支会の例会に参加。伊予の国、牛ノ峰地藏山へ登る。四国の山は初めてである。往復航空機の利用で時間的に都合がつかず、少々出費大なるも仕方ない。地元民の熱烈歓迎で大いに嬉しかった。雪も相当降ると感心？ 市内見物と道後温泉で前夜祭。大いに山行を楽しんだ。

1月24日

大文字山、池の谷地藏さんへ初詣りでをする。今年も無事息災を祈る。

1月27日

辻氏退職記念登山として水井山、参加。

私と同じ1月2日誕生日とはうれしいね。玉体杉での豚汁、お代りでたくさん戴いて満腹で御機嫌であった。食事係の方御苦労さんでした。下りは2班に別れて無事帰る。

1月31日

愛宕山へ初参り。今年も月参り決心したが、どうなるやらね。

2月18日

大文字山。

5月5日

夜泣峠からクリンソウの谷へ入る。少しづつ原状へ戻りつつある様に見られた。まだ数が少ない。早く昔の盛況が見られるように祈る事、大なり。

5月12日

愛宕山月参り。1月以来である。どうしてこんなにサボったのか判らない。信心不足？ これからその分、気合を入れんとあかん。

7月の山々

7月15日～16日 三年月の伊吹山

今年こそ好天気であります様に祈りながら参加した伊吹山。三度目の正直と云うか、全く予想外の上天気になり、二年続きの悪天候を帳消しして尚余りありと云った大好運です。近来稀に見る良

天気とのこと。真正面にどっかりと御岳山。左へ乗鞍岳、穂高連峰から明神の頭、槍もあの先端を見せてくれた。白山も左の端にどかっと座している感じ。1300mのこの山頂からこんな素晴らしい眺望が見られようとは、はずかしながら予想だにもしていなかったのです。交換レンズを用意して来なかったのが残念でなりません。「どうせ今年も雨やろうな」 ようし来年も再びこの景色再来を夢見て登山の決心を固めて下山した次第です。

7月26日～27日 連続三回登山の富士山

2年続けたから3レンテセンやろうと決心。今年は京観バス会社の登山会に参加する。初日に白糸の滝を見物してから五合目へ向う。今日も快晴である。金剛杖も会費に含まれているとかで1本置き夕食、記念写真とる。5:30出発、6合目6:00着。これからは山道である。もうお馬に乗った会員もあり、これは一寸危ないと思ったら矢張り途中ダウン。前回と違い今年は一合目泊りである。少しでも頂上に近い所で仮眠した方が明朝都合よろしい。七合から八合までの道が大変だから。10:30着、翌2:30出発である。去年は第一の鳥居で御来光であったが、今日は殆んど頂上近くまで登れた。4:40頃御来光。御朱印をして下山。元の小屋で朝食をとる。仮眠が本眠となりまだ就寝中の会員もいた。高山病と自信を失くした人々である。私は完登した充実感で意気大いに上がる。五合目バスプールまで予定通り下り、カンビールで乾杯だ。47名の会員中、33名が成功。これは優であると、会社から発表される。山登り止めると決心した人、また来年も続けると思う人。車内のアンケートである。私は後者に手を上げた。

7月31日 愛宕千日参り

知人の車で水尾町役場前まで送ってもらったので、最短距離の登山となる。この道の登山客の多いのも千日参りなればこそである。「お上りやす」「お下りやす」「ようお参り」と様々な挨拶が飛び交う山道。ほんまに人間同志仲の良いい事は美しい事である。あらゆる階層の人々が炎熱地獄の中、信心一途で歩む姿は神々しくもある。本社参拝。お札を受けて一服。ワンカップで乾杯。下りは本道へと……。お助け水附近で山岳部の人々と出合い。鷲見君の奥さんに、「私も共に参加したことにしといて……。一寸カンニングしたけれどね……。」 一日で千日分の御利益を受けられる日だものね。来月からまた月参りが続くのである。

装備係よりお知らせ

7月20日(土曜日) 部員の皆さんの御協力を得て、山岳部BOXの備品整理・整頓いたしました。暑いなか、ありがとうございました。なお、備品の一覧表は別表のとおりです。利用されるかたは、装備係に連絡のうえ借出簿に品名、月日、持出者名を記入してください。

また、返納される時は、返納日を記入し必ず元の場所に置いてください。

備品は部員皆さんの財産です。

大切に使いましょう！

品名	形状	数量	備考
テント (冬用)	391W	1	8人用
" (ツェルト)	(ポールなし)	1	2人用
" (")	緑峰山荘	1	3人用
" (夏用カヤつさ)	711	1	5人用
" (夏用)	712	1	5人用
"	ST 1	1	3人用
"	ST 2	1	3人用
"	72TY	1	
" (カラコルム)	72K	1	2~3人用
" (ダンロップ)	75D	1	3人用
" (エスパース)	76E	1	4人用
" (")	79E	1	4~5人用
" (ゴア)	80D	1	5人用
" (エスパース)	84E	1	2~3人用
ホエーブス	625	7	№1~7
ヒーター	ホエーブス用	2	
ガスコンロ	キャンピング	1	№8
"	EPI	1	
プリマスコンロ		1	
ランブ	キャンピング	2	№1, 2
"	コールマン	1	№3
コックフェル		7	№1~7
角鍋	大	1	
"	小	1	
丸鍋		2	
桶	プラスチック	1	
ざる		1	
やかん	大	1	
バケツ	プラスチック	1	
ポリタンク	18ℓ	3	
"	携帯用	1	

キャンプバケツト	布製10ℓ	2	
まな板		2	
鉄板	焼肉用	1	
飲専用小物		一式	
ガソリタンク	20ℓ	1	
"	1.5ℓ	2	№1. 2
"	1.0ℓ	1	№3
"	ポリタンク3ℓ	1	№4
ガスコンロ風防		5	
アイゼン	12本爪	5	№1~5
"	10本爪	3	№6~8
"	8本爪	2	№9. 10
"	4本爪	4	
"	"(X型)	1	
ワカシ	メタル	5	№1~5
"	ウッド	1	№6
ピッケル	ジョイナーメタル	5	№1~5
"	ウッド	2	№6. 7
スコップ	分解式	7	№1~7
"	塩化ビニール	1	
"	土掘用	2	
ジュウノ		2	
のこぎり	氷雪用	3	
"	木用	3	
オノ		1	
かま	長	1	
シユラフ		5	№1~5
発電機器		1	
投光器		2	
延長コード		1	
背負子		4	
ザイル	部 旗	4	
ザイル		8	

ザイル詳細		
白	あみザイル	40m 11ミリ
赤	"	40m "
ブルー	"	60m "
オレンジ	"	40m 10ミリ
黄	"	40m 10.5ミリ
紫	"	40m 10.5ミリ
赤	よりザイル	40m 11ミリ
赤	"	40m 9ミリ

シ	ー	ト	ビニール	5	
ト	ラン	シ		2	
防	水	液	18ℓ	1	
ゴ	ト	ク		4	
ト		ユ	エスロン	8	
ホ	ー	ス	ビニール	20m	

例 会 報 告

例会名	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1544	赤兎山	7月13日	雨	大槻 貞徒	伊藤、大槻雅 山口、原田 岡田、三橋	土砂くずれで林道が車で通行 不能なので、長距離のアルパ イトとなった。 別稿報告
1545	鉄鉦山	7月21日	晴 後雷雨	岡田 茂久 津田 実	村、横井、 渡辺夫妻 鷺見夫妻 立花夫妻 和田、古市 武田	府県境シリーズの第4回目で ある。道のないヤブコギとな ったが、全員元気に登ってき たという訳にはイカナカッタ。 …… 別稿報告
1546	夏山トレ ーニング 天ヶ岳～金 毘羅山縦走	7月28日	晴	岡本 義弘	鷺見 敏一 岡田 茂久 村 宗松	夏山トレーニングとして取組 んだが、参加者が少なく、ロ ック・クライミングとして、 川原、佐伯組が別行動で参加 した。
1547	愛宕山 千日参り	7月31日	晴	鷺見 敏一	町では夕立であったが、山では雨は降らな かった。津田氏の担当であったが、コンデシ ョン悪く担当者が変り、鷺見、和田、大切、そ の他2名、四糸大宮3時に出発し、その他は 各人バラバラで登り、山頂で、畑、方山、古 市、岡田、出海、大槻の各部員に出合った。	

1548	夏山 登山大会	8月9日 ～11日	晴後 霧雨	岡田 茂久 CL 吉田 武	(SL)岡本義、大倉、(カメラ)大槻雅、 (記録)井戸、(会計)鷲見、 山元、井上、古市、和田、出海、大槻貞、村 渡辺、原田、方山、広瀬光、岡本孝、今井、 武田、三橋、以上22名が、元気に縦走して きた。 次号報告
------	------------	--------------	----------	---------------------	---

部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
井手方面	6月16日	晴	田中 定勝	(コース) 国鉄城陽駅 8:40 → 玉水駅 → 大正池 → 代官屋敷跡 → 龍王ノ滝 → 山城多賀 → 城陽 帰宅 3:30
瓢箪山～ 大原	7月7日	曇 小雨 晴	田中 定勝	(コース) 近鉄寺田 6:55 → 京都 → 地下鉄今出川 → 出町柳 → 叡電三宅八幡 → 花園町 → 長谷町 → 寒谷峠三分岐点 瓢箪山頂上 → 分岐点戻る → 井出町 → 大原 → 戸寺町 → バス停 → 三条京阪 → 丹波橋 帰宅 3:00
北白川史跡 道～崇福寺 跡	7月21日	晴後 雨	田中 定勝	(コース) 近鉄寺田 6:55 → 京都 → 地下鉄今出川 → 銀閣寺道 → 北白川仕伏町 → 爪生山 → 地藏谷分岐点 → 弁天道二 ノ鳥居 → 夢見ヶ丘 → 沢 → 崇福寺跡 → 滋賀大仏 → 百 穴古墳 → 滋賀八幡神社 → 石坂線滋賀の里 → 大津 → 三条京阪 → 丹波橋 帰宅 5:30
高見山北尾 根縦走	7月25日	晴	伊藤 潤治 河村 清 三橋 勉 (大阪) 橋本峯雄 中野正一	丑年の土用丑の日に牛の名の山へ丑歳生れで登ろうと いう伊藤先輩のプランで京都から丑歳三代が出発し、 棒原駅で大阪組と合流し、黒石山△ 915.4 → 高山 923 → 差杉峠 → 差杉山 → 穴尾山 → 牛ヶ平山△ 882.7 と縦走 し、滝野の駐車地点へ下山した。暑い最中であつたが 尾根に出ると涼風が吹き、楽しい山行であつた。
笠ヶ岳	7月27日 ～28日	晴	津田 実 大槻 貞従 大槻 雅弘	前夜マイカーで5時間かかって新穂高温泉に到着。仮 眠し、早朝出発、笠新道 → 杓子平 → 抜戸岳 → 笠ヶ岳山 荘泊、(大槻2名はテント泊) → 笠ヶ岳 → クリヤ尾根

			原田加津子 三橋 勉	槍見温泉というコースで縦走してきた。登りは、 約500mの高度差がありしんどかったが、槍の肩から の御来光が印象的であった。
北ア 表銀 座コース 縦走	8月 2日 ~6日	晴	井戸 澄夫 大木 秀実 竹田 勉 上村 次男 森塚 良郎	(コース) 合戦尾根・燕、泊・大天井・西岳・東鎌尾根・ 槍・肩ノ小屋、泊・南岳・槍平・新穂高岳
北摂の山	8月 4日	晴	岡田 茂久 方山 宗子 三橋 勉	夏山トレーニングということで剣尾山の南方の三草 山△564.1...才の神峠(往復)・堂床山2等△584.4 (往路下山)に登ってきた。山頂でカレーライスや、 カキ氷のごちそうが出てビックリした。

雑 報

▲8月集会報告

14日 岳連ルーム

出席者 OB 坂井、 高速 岡田 梅津 吉田

本局 山口、大槻、渡辺、三橋 以上 7名

山の花については、先日八ヶ岳に行った時のコマクサ、トウヤクリンドウ、マツムシソウ、ゴゼンタチバナ、クガイソウ、ヤマオダマキ、ヤナギラン等写真に写してきたものを見てもらった。夏山登山大会として八ヶ岳の岩稜を歩いてきたが、後半お天気が悪く展望がなかったのが残念であった。最後に吉田君から昨年35周年記念登山北海道の山行と7月に尾瀬に行かれた8%を楽しくみせていただいた。

[入 部] 本局 上村 次男 S26.6.15生(O型)

伏、深草西浦町6丁目65 深草団地1-203 TEL 642-5727

[退 部] 東 昭次(OB)

▲部費受領

(高速) 和田良一、立花雅彦、井上一夫、加地卓男、楠とし子、河野 勝、松浦伸吾、鷺見敏一
広瀬光太郎、大木秀実、井戸澄夫、竹田勉、若山裕孝、鎌田利雄、岡本 孝、大杉雅晴
猪飼康夫、柳田 晃、上村次男

(横大略) 進藤義治、牧野 健、中村富美夫、中村恭子 (OB) 北林修一

[異 動] 梅津へ 広瀬 烈(洛西) 五条へ 高窪暉夫(錦林)

帆 布・瀘 布
テント・シート
雨 合 羽
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL (592) 9770 内線 228

一年中、山用品だけの
プロショップ

営業時間

午前10～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させていただきます)

<定休日> 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ
ログケビン



京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河
原町より徒歩約4分)
TEL 221-7569

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社
小林地図専門店

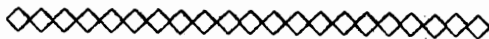
600 京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)
地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

昭和60年9月1日

京都市中京区垂生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京円町24

ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい…ネ

Horlike
KIOTO

山とスキー

のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は ゼヒ 御相談下さい

山とスキー専門店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼
御引越

専門



ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075)581-3101

本社

東山区大和大路通四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端通丸太町下る下堤町88

TEL (075)771-3442



山とスキーの店

京都 ありむ

京都市中京区新町三条上ル

075-255-0288



この用具の事なら「ニシ」が一番だ!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ

そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 251-1202